

水性完全無機コート

AD-Tech COAT

取扱説明書



日本軽窓株式会社

目次

基材別効果一覧表	1
基材別使用薬剤一覧表	2
工具紹介Ⅰ	3
工具紹介Ⅱ	4
施工方法 窓ガラス	5
ソーラーパネル	6
ステンレス	7
ステンレスシンク	8
トイレ	9
洗面陶器	10
浴槽	11
内装用タイル	12
外装用タイル（+タイル目地について）	13
外壁（+モルタル目地について）	14
壁紙	15
看板	16
車両	17
納品容器紹介	18
メンテナンスについて	19
使用上の注意	20
Q&A 良くある質問	21
防汚以外の効果に関する質問	22
施工・保管に関する質問	23
その他の質問	24

基材別効果一覧表

対象基材		効果					備考	
分類	用途例	総合防汚性	親水性	帯電防止性	塗膜耐久性	参考耐用年数		
無機系	ガラス	窓ガラス、ソーラーパネル、鏡、ガラス什器、IHトップガラス	◎ ◎ ◎	◎	◎	20年以上	20年以上	
	石材	大理石、墓石	△	○	-	-	-	石の種類によってはコーティング不可
金属系	ステンレス	エレベーター操作パネル、シンク、蛇口、手すり	◎	◎	◎	20年以上	1~3年	鏡面仕上げは不可
	アルミ	サッシ、エクステリア	○	○	◎	20年以上	1~3年	アルミ表面の多くに有機塗装
	真鍮	手すり、内壁	○	○	◎	20年以上	1~3年	他、チタン、マグネシウム等
窯業系	陶器	トイレ、洗面台、浴槽	◎	○	◎	20年以上	10年以上	
	ホーロー	洗面台、浴槽	◎	○	◎	20年以上	10年以上	
	タイル (釉薬あり)	外壁、内壁	◎	○	◎	20年以上	10年以上	艶のあるもの
	タイル (釉薬なし)	外壁、内壁	◎	○	◎	10年以上	5~10年	凹凸のあるもの
セメント系	モルタル タイル目地	外壁、内壁	○	-	-	5~10年	5~10年	カビ防止
	塗装 コンクリート	外壁、内壁、トンネル壁	○	○	◎	5~10年	5~10年	コンクリート素地はコーティング不可
有機系	FRP	浴槽、洗面台、船体	◎	○	◎	10年以上	5~10年	
	樹脂製品	壁紙、ポリカ（看板）、サイディングボード、テント地	○	△	◎	10年以上	5~10年	
	FFシート	看板	○	△	◎	10年以上	5~10年	
	アクリル	看板、什器	○	△	◎	10年以上	1~3年	
	プラスチック	テーブル、イス、什器	○	△	◎	10年以上	1~3年	
	人工大理石	テーブル、壁、キッチンカウンター	○	△	◎	10年以上	1~3年	
	人工皮革	ソファ、イス、小物	○	△	◎	10年以上	1~3年	
	デコラ板	テーブル、棚、什器	○	△	◎	10年以上	1~3年	
その他 基材	木材	柱、外壁、内壁	×	-	-	-	-	塗装あるいはラッカー仕上木材は可能
	紙類	障子、紙壁紙	×	-	-	-	-	
	塗装面	外壁、内壁、屋根	◎	○	◎	10年以上	10~15年	
	車両塗装面	車、電車、船、飛行機	◎	○	◎	10年以上	3~6年	
	プライマー面	プライマー	◎	○	◎	10年以上	10~15年	

※上記内容は、弊社試験・事例に基づく参考指標であり、効果を保証するものではありません。

※防汚効果・耐久性は、使用する環境や、かかる負荷により変動します。

※塗膜耐久性の数字は、耐候性試験の結果に基づくものです。

※塗膜耐久性および参考耐用年数の数字は、保証年数ではありません。

※塗膜耐久性および参考耐用年数の数字は、物理的強制剥離や強酸・強アルカリによる強制除去がない場合です。

基材別使用薬剤一覧表

対象基材		使用薬剤		備考	
分類	用途例	一層目	二層目		
無機系	ガラス	窓ガラス、ソーラーパネル、鏡、ガラス什器、IHトップガラス	K-1006CP05	K-504UV73	ソーラーパネルは二層目不要
	石材	大理石、墓石	K-504PAK50	—	自然石は、気孔率・クラックの有無などの問題があり塗布難度高
金属系	ステンレス	エレベーター操作パネル、シンク、蛇口、手すり	K-1006CP05	DC-2202UV73	ステンレスシンクは、二層目にC5406UVを使用
	アルミ	サッシ、エクステリア	K-1006KP50 もしくは K-504PAK50	—	
	真鍮	手すり、内壁	K-1006CP05	DC-2202UV73	
窯業系	陶器	トイレ、洗面台、浴槽	K-1006CP05	DC-2202UV73	
	ホーロー	洗面台、浴槽	K-1006CP05	DC-2202UV73	
	タイル (釉薬あり)	外壁、内壁	K-1006CP05	DC-2202UV73	艶のあるもの
	タイル (釉薬なし)	外壁、内壁	K-1006KP50 もしくは K-504PAK50	—	凹凸のあるもの
セメント系	モルタル タイル目地	外壁、内壁（食品業界）	C 5406 U V 73	—	塗布前に、洗浄・乾燥必要 ハケ塗り推奨
	塗装 コンクリート	外壁、内壁、トンネル壁	K1006KP50 もしくは K-504PAK50	—	塗布前に、洗浄・乾燥必要 ローラー塗り推奨
有機系	FRP	浴槽、洗面台、船体	K-1006CP05	K-1006KP50	
	樹脂製品	壁紙、ポリカ（看板）、サイディングボード、テント地	K-504PAK50	—	
	FFシート	看板	K-504PAK50	—	
	アクリル	看板、什器	K-504PAK50	—	
	プラスチック	テーブル、イス、什器	K-504PAK50	—	
	人工大理石	テーブル、壁、キッチンカウンター	K-1006KP50 もしくは K-504PAK50	—	
	人工皮革	ソファ、イス、小物	K-504PAK50	—	
その他 基材	デコラ板	テーブル、棚、什器	K-504PAK50	—	
	木材	柱、外壁、内壁	—	—	
	紙類	障子、紙壁紙	—	—	
	塗装面	外壁、内壁、屋根	K-1006KP50 もしくは K-504PAK50	—	
	車両塗装面	車、電車、船	DC2202KP10 / K-1006 KP50 / K-504PAK50	DC-2202UV73	車両は、各部で素材が異なる為、 要確認
	プライマー面	プライマー	K-1006KP50 もしくは K-504PAK50	—	

※2層コーティングすることで、親水力・耐久力の向上が期待できます。ご使用は任意ではありますが、車両に関しては、2層塗を推奨します。

※鏡や内装壁面などでメッキタイプのものには、K-1006CP05は使用できません。

※K-1006KP50とK-504PAK50は、基材に応じて塗りやすいものをご使用頂いて構いませんが、凹凸の大きいものはK-1006KP50、滑らかなものは、K-504PAK50のご使用をお勧めします。

※別途、各薬剤の使用方法をよく読み、ご使用ください。また、特殊な形状の基材に関しては、事前にご相談ください。

工具紹介 I

ポリッシャー



写真は、リョービ製「PE-2010」です。
その他のものでも問題ございません。

オービタルサンダー



写真は、マキタ製「M931」です。
その他のものでも問題ございません。

ウールバフ



ウールバフは短毛の物をお選び下さい。
直径の大きいものが効率的です。
写真は、直径18cmのバフです。

サンダー用スポンジパッド



上記スポンジパッドは特注品です。
ご相談下さい。
パッドは市販のものでも構いません。

シャンパー



スクイージー



工具紹介Ⅱ

手持ちスポンジ



上記スポンジパッドは特注品です。
ご相談下さい。
パッドは市販のものでも構いません。

マイクロファイバークロス



通常のタオルで施工すると、汚れが拭き取りにくく、
また繊維が基材に付着します。
マイクロファイバークロスの使用をお薦めします。

スポンジ



不織布スポンジ



刷毛



ローラー



施工方法 <窓ガラス>

対象基材：ガラス

使用機材：・ポリッシャー（ウールバフ）

使用薬剤：K-1006CP05

(DC-2202UV73)

・シャンパー

・スクイジー

推定所要時間：10分/㎡

・マイクロファイバークロス

1. 準備

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、バフに適量とります。

2. K-1006CP05塗布

ガラスを磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。10秒で30cm進む程度のスピードでポリッシャーを動かして下さい。



3. コンパウンド除去・親水確認

コーティング後、待ち時間は必要ありません。すぐに水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、同時に親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。

4. 水切り

全体が親水状態になったことを確認できたら、シャンパーとスクイジーを使用して水切りを行います。



5. 乾拭き

水切り後、表面が乾くと、流しきれなかったコンパウンドが見えてきます。これを、乾いたマイクロファイバークロスで拭き取ります。

※コンパウンドが残っていない場合は必要ありません。

施工終了

オーバーコート[®]の塗布

使用薬剤：K-504UV73



耐久性を高めるため、必要に応じてオーバーコートの塗布を行います。

1. 薬剤の配合

K-504UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、K-504UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

3. 養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

4. 乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかり拭き上げて下さい。



ガラス表面に固形物が付着している場合は、そのまま磨くと傷になる可能性がありますので、必要に応じて事前に洗浄をお願いします。



窓枠付近は、シリコンオイルの影響で親水状態になりにくいので、事前に施主様にご説明をお願いします。

施工方法〈ソーラーパネル〉

対象基材：ガラス

使用機材：・ポリッシャー（ウールバフ）

使用薬剤：K-1006CP05

・シャンパー

推定所要時間：10分/枚

・スクイジー

・マイクロファイバークロス

1. 準備

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、バフに適量とります。

2. K-1006CP05塗布

パネルを磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。10秒で30cm進む程度のスピードでポリッシャーを動かして下さい。



3. コンパウンド除去・親水確認

コーティング後、待ち時間は必要ありません。すぐに水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、同時に親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。

4. 水切り

全体が親水状態になったことを確認できたら、シャンパーとスクイジーを使用して水切りを行います。



5. 乾拭き

水切り後、表面が乾くと、流しきれなかったコンパウンドが見えてきます。これを、乾いたマイクロファイバークロスで拭き取ります。

※コンパウンドが残っていない場合は必要ありません。

施工終了

足場について



ホームセンター等で販売されている足場板（出来ればアルミ製が軽くて良い）2m程度のものに、5cm厚程度の角棒を切断しボルトで取り付けます。

足場板の片側に引っかかりの出来る鉄板をボルトとナットで取り付けます。

これを、写真のようにパネルのフレームの上に乗せ2枚を1セットとして足場にします。

裏地に、ゴムやスポンジをつけるとより安心して施工できます。



ガラス表面に固形物が付着している場合は、そのまま磨くと傷になる可能性がありますので、必要に応じて事前に洗浄をお願いします。



施工する現場によっては、水や電気の手配が必要な場合があります。事前によくご確認下さい。

施工方法 <ステンレス>

対象基材：ステンレス

使用機材：・オービタルサンダー（塗布面積が広い場合）

使用薬剤：K-1006CP05

・オービタルサンダー用パッド

(DC-2202UV73)

・手持ちスポンジ

推定所要時間：15分/㎡

・マイクロファイバークロス

1. 準備（※手塗りの場合）

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、スポンジに適量とります。

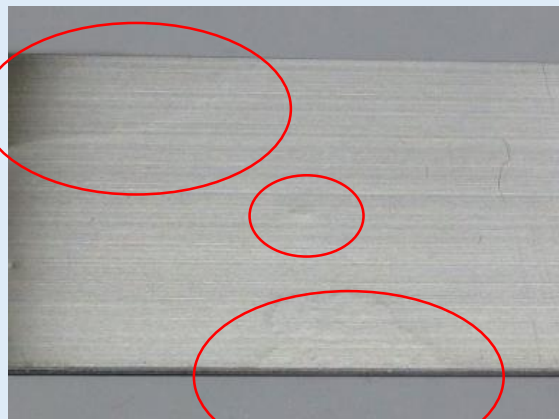
2. K-1006CP05塗布

ステンレスを磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。（ヘアライン加工は、目に沿って磨きます）



3. コンパウンド除去・親水確認

水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。



弾いているので、再度磨く

4. 乾拭き

乾いたマイクロファイバークロスで、コンパウンドを除去しながら表面の水分を拭き取ります。

施工終了

オーバーコートの塗布

使用薬剤：DC-2202UV73



耐久性を高めるため、必要に応じてオーバーコートの塗布を行ないます。

1. 薬剤の配合

DC-2202UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、DC-2202UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

3. 養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

4. 乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかり拭き上げて下さい。



鏡面仕上げのステンレスに関しては、磨きの過程で傷が入る可能性がございますので、K-504PAK50をご使用下さい。



手持ち用スポンジでは下地の汚れ除去が不十分になりがちですので、オービタルサンダーなどの機材の使用をお勧めします。

施工方法 <ステンレスシンク>

対象基材：ステンレス

使用機材：・オービタルサンダー（塗布面積が広い場合）

使用薬剤：K-1006CP05
(C-5406UV73)

- ・オービタルサンダー用パッド
- ・手持ちスポンジ
- ・マイクロファイバークロス

推定所要時間：20分/㎡

1. 準備（※手塗りの場合）

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、スポンジに適量とります。

2. K-1006CP05塗布

シンクを磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。



3. コンパウンド除去・親水確認

水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。



4. 乾拭き

乾いたマイクロファイバークロスで、コンパウンドを除去しながら表面の水分を拭き取ります。

施工終了

オーバーコートの塗布

使用薬剤：C-5406UV73



耐久性を高めるため、必要に応じてオーバーコートの塗布を行ないます。

1. 薬剤の配合

C-5406UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、C-5406UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

3. 養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

4. 乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかり拭き上げて下さい。



C-5406UV73は、耐久性アップの為、硬化性があります。その為、ムラになる恐れがございますので、均一に塗布をお願いします。



長期にわたって使用されているシンクの場合は、油分がシンクの表面傷内に浸透しているため、完全な親水状態にすることは困難です。

施工方法<トイレ>

対象基材：陶器

使用機材：・手持ちスポンジ

使用薬剤：K-1006CP05

・不織布スポンジ

(DC-2202UV73)

・マイクロファイバークロス

推定所要時間：15分/m²

1. 準備

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、スポンジに適量とります。

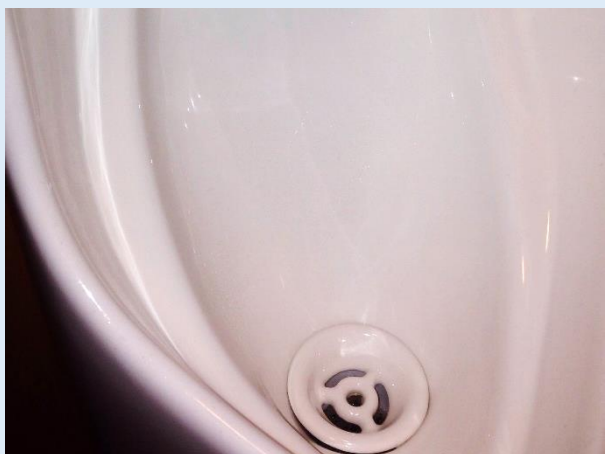
2. K-1006CP05塗布

便器を磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。



3. コンパウンド除去・親水確認

水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。



4. 乾拭き

乾いたマイクロファイバークロスで、コンパウンドを除去しながら表面の水分を拭き取ります。
※コンパウンドが残っていない場合は必要ありません。

施工終了

オーバーコートの塗布

使用薬剤：DC-2202UV73



耐久性を高めるため、必要に応じてオーバーコートの塗布を行ないます。

1. 薬剤の配合

DC-2202UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、DC-2202UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

3. 養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

4. 乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかりと拭き上げて下さい。



新品のトイレは、既にコーティング済のものが多くあり、期待できる効果が十分には得られない可能性があります。



設置後の個室水洗便器を施工するときは、バケツに貯めた水を一気に流すことで便器の水かさを減らすことが可能です。

施工方法 <洗面陶器>

対象基材：陶器

使用機材：・手持ちスポンジ

使用薬剤：K-1006CP05

・不織布スポンジ

(DC-2202UV73)

・マイクロファイバークロス

推定所要時間：15分/m²

1. 準備

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、スポンジに適量とります。

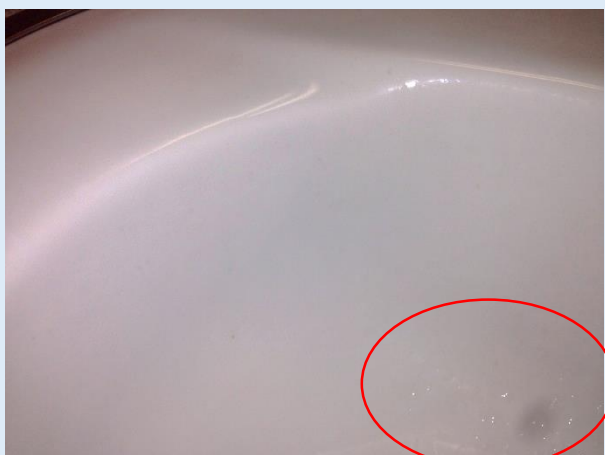
2. K-1006CP05塗布

洗面陶器を磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。



3. コンパウンド除去・親水確認

水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。



弾いているので、再度磨く

4. 乾拭き

乾いたマイクロファイバークロスで、コンパウンドを除去しながら表面の水分を拭き取ります。
※コンパウンドが残っていない場合は必要ありません。

施工終了

オーバーコートの塗布

使用薬剤：DC-2202UV73



耐久性を高めるため、必要に応じてオーバーコートの塗布を行ないます。

1. 薬剤の配合

DC-2202UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、DC-2202UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

3. 養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

4. 乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかり拭き上げて下さい。



FRP製の洗面器は、次ページにあるFRP浴槽の施工方法をご参考にして下さい。



曲線部が多いので、手塗り用のスポンジや不織布スポンジを用いての施工になります。機材を使えない場所は、汚れを除去しにくいので、時間がかかります。

施工方法 <浴槽>

対象基材：FRP

使用機材：・オービタルサンダー

使用薬剤：K-1006CP05

・オービタルサンダー用パッド

K-1006KP50

・手塗りスポンジ

推定所要時間：30分

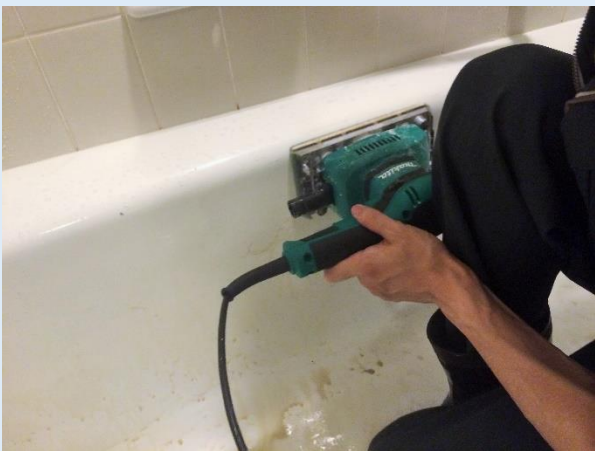
・マイクロファイバークロス

1. 準備

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、パッドに適量とります。

2. K-1006CP05塗布

浴槽を磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。



3. コンパウンド除去・親水確認

水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。



弾いているので、再度磨く

4. 乾拭き

乾いたマイクロファイバークロスで、コンパウンドを除去しながら表面の水分を拭き取ります。

5. K-1006KP50塗布

K-1006KP50を、濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスを使用して塗り伸ばしていきます。



6. 乾拭き

ゲルの粒が気になる場合は、マイクロファイバークロスなどで拭き取りをします。

施工終了



浴槽内の汚れは、目に見えずとも、頑固に残っていますので、機材を使用して磨き作業をする必要があります。



K-1006KP50施工後、さらに上からDC-2202UV73を塗布頂くことも可能です。より耐久性がアップします。

施工方法 <内装用タイル>

対象基材：タイル（釉薬あり） 使用機材：・ポリッシャー（ウールバフ）

使用薬剤：K-1006CP05

・手塗りスポンジ

(DC-2202UV73)

・マイクロファイバークロス

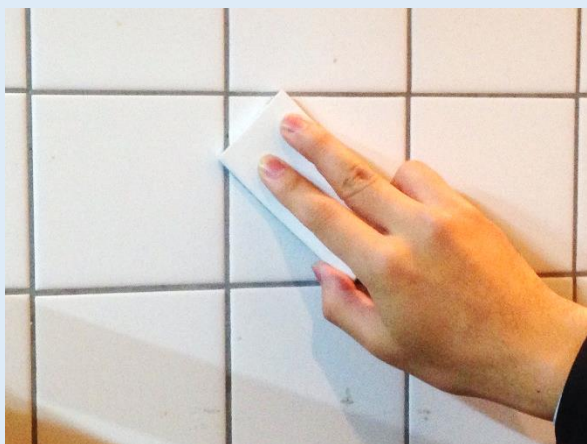
推定所要時間：10分/m²

1. 準備（※手塗りの場合）

K-1006CP05をよく振り、研磨剤がしっかりと分散したことを確認後、スポンジに適量とります。

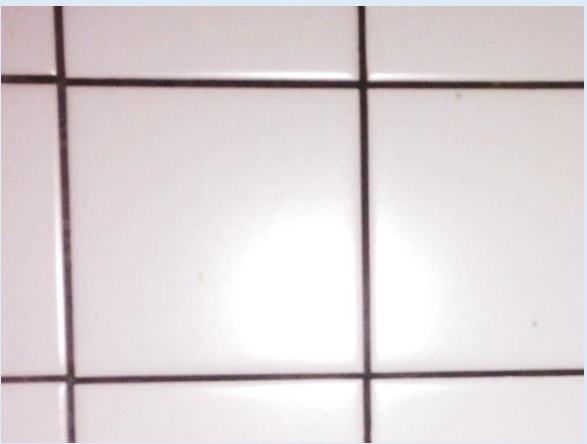
2. K-1006CP05塗布

タイルを磨きながら塗り込みます。薬剤の弾き具合を確認しながら、薬剤がなじむまで磨きます。



3. コンパウンド除去・親水確認

水をかけて、コンパウンドを洗い流しながら、親水具合を確認します。水を弾いている箇所は上記①～②を繰り返します。



4. 乾拭き

乾いたマイクロファイバークロスで、コンパウンドを除去しながら表面の水分を拭き取ります。

施工終了

オーバーコートの塗布

使用薬剤：DC-2202UV73



耐久性を高めるため、必要に応じてオーバーコートの塗布を行ないます。

1. 薬剤の配合

DC-2202UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、DC-2202UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

3. 養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

4. 乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかり拭き上げて下さい。



釉薬が塗られたタイル（特徴としては、艶のあるもの）が対象です。無釉タイルは、使用薬剤が異なりますので、事前にご確認下さい。



施工面積が広い場合は、ポリッシャーの使用をお勧めします。



タイル目地部分に関しては、次ページをご覧ください。

施工方法 <外装用タイル>

対象基材：タイル（釉薬なし） 使用機材：・手塗りスポンジ

使用薬剤：K-1006KP50

もしくは、K-504PAK50

推定所要時間：10分/㎡

・ローラー

・スポンジ付ワイパー

・マイクロファイバークロス

1. 下地洗浄

高圧洗浄を行い、壁面の汚れを除去します。
高圧洗浄ができない場所は、水拭きでも構いません。

2. K-1006KP50塗布

K-1006KP50もしくはK-504PAK50を、ローラーやスポンジ付ワイパーを使用して塗り伸ばしていきます。壁面に薬剤をつけ、霧吹きの水をかけながらローラー掛けすると伸びやすいです。



3. 乾拭き

ゲルの粒が気になる場合は、マイクロファイバークロスなどで拭き取りをします。



施工終了

タイル目地について

使用薬剤：C-5406UV73

内装用・外装用ともに、タイル目地のモルタル部分はカビ防止としてC-5406UV73を使用します。

1. 薬剤の配合

C-5406UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布

細い刷毛を使用して、C-5406UV73を目地部分に塗り込みます。



対象は、モルタルのみです。
コーキング材には効果がありません。



C-5406UV73は硬化性がありますので、対象物以外に付着した際は、しっかりと拭き取って下さい。



ゲルタイプの薬剤は、釉薬タイル、無釉薬タイル、どちらにも塗布可能ですが、釉薬タイルに塗布する際は、スポンジやマイクロファイバークロスで“磨きながら”塗布します。



ゲルの粒が気にならない場所（トンネル内など）では、拭き取りはしなくても問題ありません。

施工方法〈外壁〉

対象基材：塗装コンクリート

使用機材：・ローラー

使用薬剤：K-1006KP50

・スポンジ付ワイパー

もしくは、K-504PAK50

・マイクロファイバークロス

推定所要時間：10分/㎡

1. 下地洗浄

高圧洗浄などを行い、壁面の汚れを除去します。

2. K-1006KP50塗布

K-1006KP50もしくはK-504PAK50を、ローラーやスポンジ付ワイパーを使用して塗り伸ばしていきます。壁面に薬剤をつけ、霧吹きの水をかきながらローラー掛けすると伸びやすいです。



3. 乾拭き

ゲルの粒が気になる場合は、マイクロファイバークロスなどで拭き取りをします。



施工終了

モルタル目地について

使用薬剤：C-5406UV73

モルタル素地部分はカビ防止として、C-5406UV73を使用します。

1. 薬剤の配合

C-5406UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

2. 塗布

細い刷毛を使用して、C-5406UV73を目地部分に塗り込みます。



対象は、モルタルのみです。コーキング材には効果がありません。



C-5406UV73は硬化性がありますので、対象物以外に付着した際は、しっかりと拭き取って下さい。



吹付けでの施工はできません。しっかりと塗り込むように塗布して下さい。



ゲルの粒が気にならない場所（トンネル内など）では、拭き取りはしなくても問題ありません。

施工方法 <壁紙>

対象基材：樹脂製品

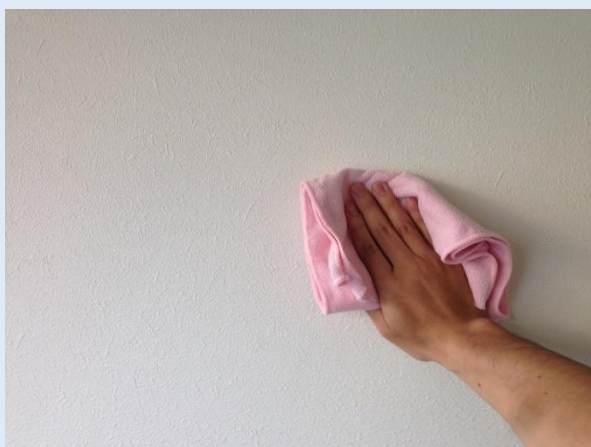
使用機材：・マイクロファイバークロス

使用薬剤：K-504PAK50

推定所要時間：5分/m²

1. 下地洗浄

汚れがひどい場合には、水拭き等を行ない、壁面の汚れを除去します。



3. K-504PAK50塗布

壁紙が傷つかないように気を付けながら、ゆっくり薬剤を塗り込んでいきます。凹凸の中にしっかり薬剤が入り込む様、意識して行って下さい。



2. 塗布準備

水で濡らして固くしぼったマイクロファイバークロスにK-504PAK50を少量とります。



4. 乾拭き

壁面にゲルの粒が残っている場合は、マイクロファイバークロスで拭き取ります。

施工終了



凹凸の激しい形状の壁紙では、施工が難しい場合があります。塗り込みができるかどうか、事前によくご確認ください。



最初にマイクロファイバークロスで薬剤をとり、一定間隔をあけて何箇所かにつけておきます。その後、それぞれ塗り伸ばしていくと効率的です。

施工方法 <看板>

対象基材：樹脂製品

使用機材：・マイクロファイバークロス

使用薬剤：K-504PAK50

・シャンプー

推定所要時間：10分/㎡

1. 下地洗浄

高圧洗浄や水拭きを行い、看板の汚れを除去します。染みついてとれない雨筋などの頑固な汚れに対しては、専用の洗剤等をご使用下さい。



3. K-504PAK50塗布

K-504PAK50を、水で濡らして固くしぼったマイクロファイバークロスを使用して塗り込みます。



2. 塗布準備

水で濡らして固くしぼったマイクロファイバークロスにK-504PAK50を少量とります。



4. 乾拭き

ゲルの粒が気になる場合は、マイクロファイバークロスなどで拭き取りをします。

施工終了



看板は、アクリル、フィルム、FFシートなど、多種の素材があります。中でも、フィルムタイプは、傷つきやすいので、十分注意して施工して下さい。



最初にマイクロファイバークロスで薬剤をとり、一定間隔をあけて何箇所かにつけておきます。その後、それぞれ塗り伸ばしていくと効率的です。

施工方法〈車両〉

対象基材：車両塗装面

使用機材：・ポリッシャー（ウールバフ）

使用薬剤：K-504PAK50

・マイクロファイバークロス

DC-2202UV73

所要時間：約2時間/台（コーティングは約30分）

1. 下地処理

①洗車

砂・埃・汚れを除去します。その後、水で流して、マイクロファイバークロスで水分を拭き取ります。

②鉄粉除去

ボディに付着した鉄粉を、鉄粉除去剤や専用の粘土を使用して取り除きます。

③磨き

微粒子のコンパウンドとポリッシャーを使用して、ボディを磨いていきます。

④脱脂

脱脂剤を使用して、コンパウンドの油分を除去します。



2. K-504PAK50塗り込み

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、K-504PAK50を適量とり、塗り込みます。塗る場所が広い場合は、50cm四方程度ずつに分けて塗り込んでいき、その後、乾拭きをして薬剤を拭き取ります。



3. DC-2202UV73塗り込み

①薬剤の配合

DC-2202UV73は主剤と硬化剤に分かれています。主剤4：硬化剤1で混ぜたものを準備します。

②塗布（2回以上繰り返します）

濡らして固く絞ったマイクロファイバークロスに、DC-2202UV73を適量とり、塗り込みます。塗布面積が広い場合は、50cm四方程度に区切って塗り込んでいきます。

③養生

10分ほど養生期間を設けて下さい。

④乾拭き

ムラがないことを確認しながら、マイクロファイバークロスでしっかり吹き上げて下さい。バフ掛け用ポリッシャーがある場合、ご使用頂くと、より早く均一に仕上がります。



施工終了



一般的な車両ボディの施工方法です。特殊形状（FFシート、ステンレスなど）のものや、特殊塗料（自動修復塗料など）のものは、別途ご確認をお願いします。



手順1-③を数段階に分けて行う場合は、最終磨きの手前でK-504PAK50を塗り込むと効果的です。

<例> 磨き1→磨き2→脱脂→**ゲル**→磨き3→**オーバーコート**→バフ掛け

納品容器紹介

主な薬剤のタイプ



液体タイプ



コンパウンド入りタイプ



ゲルタイプ

1kg 液体容器



対象薬剤
K-1006v

500g 液体容器



対象薬剤
K-1006CP05

1kg ゲル容器



対象薬剤
K-1006KP50 / K-504PAK50

800g+200g 液体 2液タイプ



対象薬剤
DC-2202UV73 / K-504UV73 / C-5406UV73

20kg 液体容器



ご希望に応じて
大型容器でご提供します

メンテナンスについて

AD-Tech COATは、完全無機であることによる有機汚れの付着低減に加え、セルフクリーニング効果、帯電防止効果によって、優れた防汚性を発揮します。

さらに、適切なメンテナンスをして頂くことで、最大限に防汚効果を発揮し、長い間キレイな状態を維持することができます。その為に、本ページをご参考下さい。



お手入れ時の注意点

硬いもので擦ると、基材に傷がつきます。基材が傷つくと、それに伴いAD-Tech COATも剥がれてしまいますので、洗浄の際は、金属ブラシや研磨パッドは使用せず、柔らかいスポンジ・ブラシ・タオルなどを使用して下さい。

強酸・強アルカリの薬剤は、基材と一緒に塗膜が剥がれる可能性がありますので、使用しないで下さい。

脚立からの転倒や、洗剤の目への付着などには十分注意して作業するようにして下さい。

屋外のお手入れについて

雨がかりにくい場所に付着した汚れや、雨で取り切れないような頑固な汚れは、軽く水洗いをして洗い流します。

水洗いで落ちない場合は、中性洗剤を使用して洗浄して下さい。洗剤使用後は、しっかりと水をかけて、洗剤を洗い流して下さい。

水が乾く前に砂ぼこりなどが付着することがありますので、砂ぼこりの舞うような日は清掃を避けるようにして下さい。

屋内のお手入れについて

普段水がかからない場所の汚れは、水拭きをして落とします。

水拭きで落ちない場合は、中性洗剤を使用して洗浄して下さい。洗剤使用後は、しっかりと水拭きと乾拭きをして、洗剤を拭き取って下さい。

ガラス・鏡のお手入れについて

ガラス・鏡などの水垢の原因の一種は、水道水に含まれるカルキです。カルキ成分が基材と結びつき、頑固なウロコ汚れとなります。ガラス・鏡などに対して水道水を使用して洗浄をする場合、水切りをすることで、汚れの原因であるカルキの付着をより防ぐことができます。

カビ・藻のお手入れについて

カビや藻は、風通しのよくないところ、水や汚れが溜まりやすいところなどで生えやすく、どこにでも生える可能性があります。一度生えると、次第に広がっていくので、少しでもカビや藻を見つけたらすぐに落として下さい。

初期発見ができたなら、水をかけながらスポンジで擦る等、水洗いして下さい。

落ちない場合、カビ取り剤や専用の洗浄剤の使用が必要になりますが、その使用に関しては、カビ取り剤や洗浄剤の取扱説明書に従って下さい。

使用上の注意

重要説明事項

AD-Tech COATは、汚れが全く付着しなくなるものではございません。基材によって期待できる効果をよく確認のうえ、ご購入下さい。

施工において注意が必要な基材・効果が期待できない基材がございます。下記説明事項の確認をお願いします。

ご使用できないものについて

表面に特殊加工を施している基材（例：防曇加工など）については、施工できないものがあります。事前によく確認をお願い致します。

床面は、親水性によって滑りやすくなる恐れがありますので、使用しないで下さい。

コーティング面が口に触れる可能性がある箇所（例：食器など）については、使用しないで下さい。

直接火が当たるような箇所（例：ガスコンログリル内の網など）では、コーティング被膜が残っていたとしても、親水性による効果を発揮できず、防汚効果が期待できません。

上記以外の基材であっても、素材・形状・環境によっては、施工できない、もしくは効果を得られない可能性がございます。基材の説明事項・注意事項をよく読み、各メーカーにご確認をお願いします。

保管について

蓋をしっかりと閉め、直射日光を避けた冷暗所にて保管して下さい。

商品は、一部白濁、微粒子が浮遊・沈降が見られる場合がありますが、良く振ることで分散します。

保証について

本取扱説明書の内容は、弊社試験・事例に基づく内容であり、効果を保証するものではございません。

AD-Tech COATが原因で生じた問題（例：基材の変色・劣化）に関しては、製造者責任法に基づいて、ご対応致します。

施工におけるトラブルに関しましては、弊社では保証できません。

Q&A 良くある質問

Q		どんな汚れでも対応できますか？
1	A	コンクリートの内側からにじみ出るエフロレッセンスや、鉄骨から流れる錆、また、あまりにも過度な油汚れなどには十分な効果は発揮できません。通常、汚れの原因は排気ガスや、チリ・埃などであり、それら対しては、強い効果を発揮します。
Q		どんなものにもコーティングできますか？
2	A	紙、布、生木など、水が浸み込むものにはコーティングできません。
Q		どんな場所でも効果がありますか？
3	A	湿度40%以上の場所であれば、どこでも効果を発揮します。ただし、セルフクリーニング効果を発揮するのは、雨が当たる場所だけになります。
Q		雨が当たらなくても効果はありますか？
4	A	帯電防止により、チリ・埃・排気ガスなどの汚れが付着しにくいという効果があります。また、汚れが付着しても、水拭きで取れやすい状態になっています。
Q		塗膜の耐久性はどのくらいですか？
5	A	対象基材や現場環境によって異なりますが弊社では下記の耐候性を確認しています。 【SUVテスト1000時間劣化なし（実際年数換算20年劣化なし）】 基材ごとの参考数値は、別紙「基材別適合表」をご覧ください。
Q		製品保証制度はありますか？
6	A	AD-Tech COATが原因で問題が起こった際は、PL保険に基づき保証致します。
Q		コーティング後のメンテナンスはどうすればよいですか？
7	A	水だけでの洗浄、もしくは中性洗剤での洗浄をお願い致します。詳しくは、別紙「メンテナンスについて」をご覧ください。
Q		光触媒との違いは何ですか？
8	A	光触媒は、主に「酸化チタン」+「有機溶媒」でできており、親水性・帯電防止性に加え、紫外線に反応して汚れを分解・空気を浄化する機能があります。 AD-Tech COATは、「シリカ」+「水」でできており、親水性・帯電防止性があります。光を必要としないことに加え、溶媒が水ですので、取り扱いが安全・簡単です。また、有機物質もゼロですので、変色・劣化の心配もありません。
Q		従来のガラスコーティングとの違いは何ですか？
9	A	AD-Tech COATには、有機物が入っておらず変色・劣化の心配がないことに加え、基材の膨張収縮に追従する柔軟さがあります。被膜は、光の反射を抑制するので、艶はできませんが、色の深みが出て基材本来の風合いを変えません。
Q		完全無機のメリットは何ですか？
10	A	有機汚れが付着しにくくなること、変色・劣化しないこと、取り扱いが簡単で安全なこと、環境に優しいことです。

Q&A 防汚以外の効果に関する質問

Q 11	抗菌機能はありますか？
A	ありません。
Q 12	臭い対策にはなりますか？
A	臭いの原因となる汚れが付着しづらくなりますので、間接的に効果はありますが、完全に臭いの発生を抑えるものではありません。
Q 13	カビ対策にはなりますか？
A	カビの栄養となる汚れが付着しづらくなりますので、間接的に効果はありますが、完全にカビの発生を抑えるものではありません。
Q 14	ガラス・鏡の曇り止めにはなりますか？
A	水をかければ水の膜ができて曇り止めになります。ただし、この効果は、被膜表面に汚れの無い事が条件です。汚れたら水で洗浄するなどのメンテナンスを行ってください。
Q 15	傷がつきにくくなりますか？
A	被膜が非常に薄く、基材の強度を上げるものではないため、そのような効果はありません。
Q 16	ガラス・鏡のウロコ汚れは落ちますか？
A	AD-Tech COATの研磨剤は超微粒子で、基材を傷つけるものではありませんので、基材と結合してしまっている頑固なウロコ汚れは除去できません。専用の薬剤や高硬度の研磨パッドで除去が必要です。 AD-Tech COAT施工後は、ウロコ汚れがつきにくくなります。

Q&A 施工・保管に関する質問

	施工後の乾燥待ち時間は必要ですか？	
Q 17	A	必要ありません。時間をおくと、コンパウンドが乾いて流しにくくなる為、施工後は、すぐに水をかけてコンパウンドを除去して下さい。オーバーコート剤を使用するときのみ、硬化時間が必要ですので、10分程度お待ち下さい。
	誰でも取り扱いできますか？	
Q 18	A	はい。特に講習や免許などは必要ありません。
	特別な機材、スキルは必要ありますか？	
Q 19	A	薄めのスポンジを使用しての手塗りでも問題はないですが、下地の汚れを除去しようとすると時間がかかります。ポリッシャーやオービタルサンダーなど、清掃機材の使用をお勧めします。スキルは必要ありません。しっかりと磨いて頂ければ結構です。
	ムラになることはありますか？	
Q 20	A	50ナノの薄い被膜であり、ムラになることはありえません。ただし、オーバーコートを使用したときは、膜に厚みができる分、ムラになる可能性がございます。
	基材が変色・劣化することはありますか？	
Q 21	A	有機物が含まれていない為、AD-Tech COATが原因で基材が変色・劣化することはありません。
	天候の影響は受けますか？	
Q 22	A	氷点下の時のみ作業不可です。晴天時や降雨時の作業は可能ですが、炎天下の作業は極度に乾燥が早くムラが出やすくなります。そのため、炎天下での作業は控え日陰で作業して下さい。
	密閉空間で作業しても大丈夫ですか？	
Q 23	A	揮発性物質がゼロですので問題ありません。マスクの着用も換気も必要ありません。
	コーティング後、塗装は可能ですか？	
Q 24	A	基本的に可能ですが、使用する塗料のメーカーへご確認お願い致します。
	他のコーティング剤との併用は可能ですか？	
Q 25	A	下塗剤としては、AD-Tech COATの効果がなくなってしまいますので、併用する意味がありません。 上塗剤としては、AD-Tech COATの効果はありますが、下地によっては被膜形成が難しい為、事前にご相談下さい。
	施工費用はいくらくらいですか？	
Q 26	A	全体の作業量、足場の必要性、などによって変動します。事前にご相談下さい。
	薬剤はどのように保管すればよいですか？	
Q 27	A	蓋をしっかりと閉め、直射日光を避けた冷暗所で保管して下さい。
	薬剤の消費期限はありますか？	
Q 28	A	保証期間は1年間です。上記保管方法をし開封後はできるだけ早めに使用して下さい。

Q&A その他の質問

Q 29		親水性とは何ですか？
A	基材と水の接触角度が50度以下を親水、90度以上を撥水と呼んでいます。親水は、水が基材になじみ、水の膜ができるのに対して、撥水は、基材が水を弾き、水の玉ができます。AD-Tech COAT塗布後は、10度以下の超親水と呼ばれる状態になります。親水性を強くすることで、汚れと基材の密着力よりも、水と基材の密着力の方が強くなり、水によって汚れが洗浄できるセルフクリーニング効果が生まれます。また、撥水状態のような大きな水玉がでにくいため、水垢やイオンデポジットの予防になります。	
Q 30		研磨剤はどのくらいの大きさですか？
A	研磨剤の大きさは約2ミクロンのものを使用しております。研磨剤も、シリカやアルミナの微粒子であり無害です。また、基材に傷をつけるものではありません。	
Q 31		熱には強いですか？
A	塗膜の耐熱温度は1300℃で、非常に強いです。ただし、水が蒸発する環境では、親水性の意味がありませんので、効果が半減します。	
Q 32		摩擦には強いですか？
A	膜摺動摩擦試験にて、非常に強いことを確認しております。鉄道車両の洗車機によるブラッシングでも被膜は剥がれません。	
Q 33		日本製ですか？
A	はい。	
Q 34		シリカとは何ですか？
A	SiO ₂ です。ガラスの主成分であり、砂・岩・土の構成元素です。地球上で2番目に多い物質であり、大地を作っている成分とも言われています。化粧品・飲料水などにも含まれており、非常に安全で、無害な物質です。	
Q 35		薬剤にいろいろな品番があるのはなぜですか？
A	基材の形状に合わせてより効果的なものをご使用頂けるようにしております。基本成分は、すべて、「水」+「シリカ」です。適正な薬剤が分からない場合は、事前にご相談下さい。	

お問い合わせ

日本軽窓株式会社

〒101-0032

東京都千代田区岩本町2-8-2

ケイソウビル

TEL : 03-3865-2414 (代表)

03-3865-2474 (リニューアル部)

FAX : 03-3865-1650

E-mail : ad-techcoat@n-keisou.com

www.n-keisou.com